

留学先国名 **アメリカ合衆国**

留学先学校名 : **シンクレア・コミュニティ大学**

留学期間 : **平成 26 年 8 月 ~ 平成 28 年 6 月**

* 留学中の成果及び、得たことをどのように生かすか

私は今まで、将来英語を生かして何をしたいかずっと考えてきましたが、公立小学校の先生を目指すことを決めました。文部科学省は 2011 年から小学校 5、6 年生から 外国語活動が必修になり、さらに正式に小学校 3 年生に格上げすることが決まりました。日本でグローバル化への動きが進む中で取られた政策です。しかし課題として、教員の指導力が挙げられています。小学校の英語教育に必要な知識や英語コミュニケーションスキルがまだ未熟な教師がこの政策によって英語を教えなければいけなくなりました。私は留学で学んだ英語を生かして、わかりやすくネイティブに近い英語を小学生から教えていきたいです。また人に教えることによって教えている内容を自分が本当に理解しているか確かめることができ、自分の知識も深まります。この留学で得られた経験を生かして、私が学んだことを英語のコミュニケーションも含め、小学校の英語教育に繋げてくことが今の私の目標です。そして小学校の英語教育の経験を積んで、将来は日本の英語教育の改革に貢献していきたいです。

また、2020 年には東京オリンピックが開催されます。その時にはボランティアとして参加し、さまざまな国から来られる人たちが、日本で有意義な時間を過ごしていただけるように少しでもその助けになりたいし、またこれを機会に沢山の人が日本に戻ってきたいと思ってもらえるようにしたいです。

* 留学中の生活

アメリカは「人種のサラガボウル」と言われるように、いろんな国の人々が一緒に文化を共有して暮らしています。そのため、いろんな国のイベントが行われていることが多々あります。例えば 11 月の初めには「Día de Muertos (死者の日)」と言われるメキシコのお祭りが私の住むアパートの近くでありました。それはラテンアメリカの祝日だそうです。この「死者の日」には自分の親しかった方で亡くなった人が骸骨になって自分を訪ねてくると言われています。アメリカの 10 月 31 日にあるハロウィンに似ていて、みんな骸骨のメイクをして、色鮮やかな衣装をしていました。名前だけ聞くと、暗いイベントなのかと思いきや、とても賑やかで楽しいイベントでした。屋台ではタマーリ（トウモロコシの粉を練ったものにひき肉を詰め、トウモロコシの皮で包んで蒸したもの）などのメキシコ料理が振舞われていました。また 9 月には「Octoberfest (オクトーバーフェスト)」と言われるイベントがありました。オクトーバーフェストとは、ドイツのミュンヘンで行われる秋のビール祭りです。今では日本でもよく行われていると思います。このようにアメリカではさまざまな他の国の文化を尊重しているように思います。

アメリカではレストランもいろんな国のものがよくあり、あんまり聞いたことがないような食べ物メニューに載っていることがよくあります。たとえば、プリトー（Burrito）はもともとメキシコの料理で、トルティーヤと言われる薄いナンのようなものに米や豆、野菜、肉などを入れて巻いたものなのですが、アメリカではいろんなレストランで売られています。あのマクドナルドでも売られています。

このようにアメリカではいろんな国の食べ物に出会う機会があるため、自分で自炊するときには日本食以外に作るものが多くなったように思います。この前はラザニアを初めて作りました。もともとはイタリア料理なのですが、アメリカでもよく食べられています。また、アメリカのスーパーではいろんな国の食べ物が置かれているコーナーがあるため、新しい料理に挑戦しようと思っても材料が簡単に手に入るため、すぐ挑戦できて楽しいです。

この秋学期の授業は、社会学、人類学、微積分、心理学、アメリカ政治学を取りました。どの授業も学ぶことが多くて楽しかったです。アメリカ政治学は他の元々アメリカに住んでいてアメリカ政治の基礎がわかっている生徒たちと受けたので少し難しかったのですが、ちょうど2016年にアメリカの大統領選挙があるため、大統領選挙の仕組みなど実際に新聞やニュースで起こっていることを取り上げて授業が行われたため、現実味があり、面白かったです。日本にはやはりアメリカの大統領選挙という大きな出来事であったとしても、どこか他人事に思えてしまうものだと思います。私は今までアメリカの大統領は、アメリカ国民が直接大統領候補者に投票するものであると思っていたのですが、本当は国民が支持している大統領候補者を投票するであろうと思われる自分の住んでいる州の代議員（大統領選挙人と言われる）に投票し、その国民の多数票を得た州の代議者が大統領候補者に投票するという間接的な仕組みであると知りました。

また社会学の授業では、校外学習で初めてボランティアに参加しました。「2015 Greater Dayton 5K Heart Walk/Run」という American Heart Association（アメリカ心臓協）が主催の5キロマラソンのイベントで、準備、受付、最後の片付けを手伝いました。この5キロマラソンは、脳卒中や心臓血管系の病気の危険と心臓の健康を訴えることを目的とした活動です。小さな子どもや、家族みんなで参加しているグループもありました。このような非営利団体のボランティアに参加するのは初めてだったので、いい経験でした。

* これから留学する人へ

ステレオタイプという言葉があります。ステレオタイプとは万人がある物事に持つイメージのことです。固定観念と訳すこともできます。アメリカに来てこの言葉を耳にすることが多くなりました。アメリカではたくさんのステレオタイプがあり、それはしばしばあまり良くないものとされています。私もアジア人というだけで、数学がよくできるだろうと思われる。他にもお寿司をよく食べるだろうとか、アニメが好きだろうとかいうものもあります。これらはまだ小さいものですが、アメリカにはいろんな人種が存在するため、その人種それぞれにあるステレオタイプがありますが、そのことになると、敏感な問題になります。例えば、アメリカでは白人よりも黒人による犯罪率が高いため、黒人はみんな危険であるというステレオタイプを持つ人がいます。このようなステレオタイプはアメリカでは多く存在しますが、それはあくまで固定観念であって、いつも正しい訳ではありません。留

学するとき私も、アメリカ人はみんなフレンドリーだけど何事にも適当であるというイメージを持っていましたが、そうでない人も大勢います。またスペイン語を喋っている人を見たらスペイン人かメキシコ人かなと思ったらアルゼンチン、ペルー、チリ、ボリビア、コロンビアなど実はこれらの国もみんなスペイン語圏であるのだということを改めて知りました。私もよく日本人ではなく中国人だと間違えられたり、中国語を話すと思われることがあります。やはり違う人種に間違えられるというのはあまりいい気分ではありません。これから留学する人は、どこに留学したとしてもそのようなステレオタイプな考えを捨てて、人と接することが大事だと私は思います。もしステレオタイプな考えの人に出会ったら、そうではないんだよ、と教えてあげるのもいいと思います。そして逆に、自分の固定観念によって相手を傷つけてしまった場合はその場で正直に謝つたらいいと思います。